



## 【大会日程】

2023年4月12日(水)午後1時 ーしんらん交流館 大谷ホールー

開 挨 会 拶 真宗宗歌  
真宗大谷派同和関係寺院協議会 会長 松尾英城  
真宗大谷派宗務総長 木越 渉

記念講演 講題 「全国水平社創立100年の今日的意味と部落解放への展望」  
— 部落問題克服にむけた課題と宗教者への期待 —

講師 谷元 昭信

大会表白 「是旃陀羅」問題に対する基本姿勢表明

閉 会 恩徳讃

午後4時 ー 東本願寺御影堂門前・市民緑地ー

記念ライブ 「人間を忘れない!」 SHINGO★西成・DJ FUKU

終 了

真宗大谷派「同関協」宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要記念大会

## あなた人間忘れていませんか？

—共に、朋に、友に生き遇いましょう—



二〇二三年四月十二日(水)午後一時から、「真宗大谷派同和関係寺院協議会宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要記念大会」を、「あなた人間忘れていませんか？—共に、朋に、友に生き遇いましょう—」のテーマのもと、しんらん交流館大谷ホールで開催した。会場には、木越涉宗務総長・尾畠英和解放運動推進本部長も出席され、全国から「同関協」会員をはじめ宗議会議員や一般の住職・ご門徒の方々など、約百五十名の参集があった。

片山寛隆常任委員の司会で記念大会がはじまり、冒頭に松尾英城会長が、「宗祖の御誕生・立教開宗を慶讃するとは、我々が親鸞聖人を宗祖としながら、そのみ教えに背き続けてきたことへの慚愧を通して、御同朋御同行の精神を回復する歩みを進めるということではないか。この歩みの実践こそが同朋会運動であり、「同関協」の根底に流れる願いでもある。慚愧のない慶讃はありえない。慚愧の精神によって差別問題と向き合ふべきである」と述べた。

木越宗務総長は、松尾会長の挨拶の中にあった「慚愧」の言葉をなぞらえ、「故平野修先生が蓮如上人御遠忌の折に「これから真宗大谷派が行う法要全て慚愧を持たねばならない。慚愧の法要である」と話されていた」とのお話や、宗門の課題となっている「是旃陀羅」問題についての現在の取り組み状況などを述べられ、挨拶とされた。

その後、「全国水平社創立100年の今日的意味と部落解放への展望」—部落問題克服にむけた課題と宗教者への期待—と題して谷元昭信さん(元部落解放同盟中央書記次長)の記念講演(四〇五ページ参照)があり、熱のこもったお話を皆が聞き入っていた。

記念講演終了後、「同関協」の「是旃陀羅」問題に対する基本姿勢について、会長から説明(六〇七ページ参照)があり、その姿勢表明となる大会表白(八〇九ページ参照)を、ご本尊の前で川端裕敬大会実行委員長が読みあげた。この表白は、「是旃陀羅」問題に対する会員の声を聞き合う場として、二〇二二年三月と十月の計二回、「是旃陀羅」問題を考える奉仕団」を同朋会館で開催し、参加した会員の声を踏まえて検討・作成したものである。当日のパンフレットにも掲載し、川端大会実行委員長の読みあげに合わせ、参加者の皆さんも黙読し、確認されている姿が印象的であった。

基本姿勢の表明が即「是旃陀羅」問題の解決とはならないが、まずは「同関協」から発せられたこの大会表白が、広く宗門内に波紋として届くことを願ってやまない。



## 「同関協」宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要記念大会

### 記念講演

講題 全国水平社創立100年の今日的意味と部落解放への展望  
— 部落問題克服にむけた課題と宗教者への期待 —

### 講師

谷元 昭信

Tanimoto Akinobu

元部落解放同盟中央書記次長  
元反差別国際運動事務局次長  
元大阪市立大学非常勤講師・関西学院大学非常勤講師  
現在 部落解放論研究会代表・世話人



記念大会に宛てたメッセージ  
記念大会パンフレットより

日本における部落差別の存続にかかわって、宗教は歴史的に密接な役割を果たしてきました。とりわけ、被差別部落の八割におよぶ門徒をかかえる真宗教団は、日常生活はいうにおよばず経典や教学においても深い関係を維持してきました。

「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年」という大きな節目の年に、「是旃陀羅」問題に象徴されるような自らの差別的体質に真摯に向き合い、親鸞聖人の搖るぎなき平等思想に立ち帰ながら、部落差別は言うにおよばずあらゆる差別撤廃への宗教的取り組みを具体的に推し進めることができます。

部落解放運動も、「解放令」発布150年、全国水平社創立100年という時空を経て、新たな部落解放運動を創出する段階に立ち至っています。その方向性は、水平社創立宣言が謳いあげた「誇りの戦略」を基調にして、「水平的社会連帯」と「地域共生社会」を実現していく取り組みだと思っています。

部落問題の1日も早い解決に向けて、真宗大谷派同和関係寺院協議会、ならびに解放運動推進本部と部落解放運動が強力な協働の取り組みを可能にする道筋を探っていきたいと思います。



別する意志、侮辱の意識が差別である」と展開され、水平社宣言は、差別用語を用いないと意味をなさない、差別をなくせないから用いたのである。だからこそ、「水平社宣言が差別文章ではなく、差別をなくすための文章である」と説明のうえ、「旃陀羅」という言葉も差別用語である。

どのような文脈で使われるかが重要である。同時に、使つてはいけないということが文脈の中で表れているかどうかが大切である。差別語を不用意に使うと、差別語のもつてゐる歴史的、社会的な意味合いから、多くの人々に差別意識を助長、再生産する結果をもたらすのである」と警鐘を鳴らされた。このことは、「是旃陀羅」問題を考えるうえでも大きな示唆をいただいた。

また、水平社宣言の持つ「人間を尊敬することにより差別を克服する。差別する側もされる側もお互いに救わっていく」という思想は、親鸞聖人の思想に通じているとお話しされ、親鸞聖人が「屠沽の下類」という宗教的立場を表明されたことをあげ、「エタである事を誇り得る」と宣言した水平社宣言の文言と通じると述べられた。

最後に、宗派が課題としている「是旃陀羅」問題に触れ、一部の者が考えるのではなく、全門徒、全住職が主体的に考え、取り組むことが願われると締められた。

しかし、「差別とは、差別用語を使ったからといって差別ではない。差がない部分もあることを指摘された。しかし、「差別とは、差別用語を使ったからといって差別ではない。差

## 「是施陀羅」問題とは

「是施陀羅」の教説部分は、被差別者にとってはやりきれないほど、心に痛みを感じるところである

か。だとすれば、この「同朋精神の回復」が歩む方向となり、その前提として「喪失の自覚」が課題化されます。それを、「人間を忘れないのか」という問いかけとして、「同関協」は慶讃テーマとして掲げ、発信しました。

### 『親鸞思想に魅せられて』

小森龍邦著(明石書店)

### 「同関協」の取り組み

二〇一三年、宗派は『仏説觀無量壽經』(以下、「觀經」)の「是施陀羅」ということばについて、部落解放同盟広島県連合会から問題提起を受けました。

「施陀羅」はインド古代の被差別民「チャンダーラ」のことです。

真宗の僧侶は、「施陀羅」を日本の被差別民衆である「穢多・非人」の「うなもの」と喻えて布教をしてきました。

「是施陀羅」問題は、百年前の全国水平社創立以来、その差別性を指摘されながら、宗派として今日まで十分に向き合ってきませんでした。

被差別部落のご門徒と直接的に「縁のある私たち」同関協の寺院もまた、お寺の儀式やご門徒の法事等で「觀經」を読誦してきました。

水平社創立以来、提起してきた「是施陀羅」問題について、今、私たちが問われ続けているのは、糾されていることを忘れていたのです。それは、宗派の教学委員会の「報告」によれば、「同朋精神喪失の事実にすら無自覚」という姿勢といえるのではないでしょう

宗派では、「是施陀羅」問題の意識喚起と課題共有がはかられていますが、その中で、果たしてどのよう被差別部落のご門徒と語り合っていけるのか。そのような会員の声を互いに聞き合っていくため、「同関協」は慶讃法要のお待ち受け事業として2度の「是施陀羅」問題を考える奉仕団を結成し、寝食をともに事業の方針として取り組んできました。

宗派では、「是施陀羅」問題に対する信頼を示すものでなくではなくてはならないことを思います。同時にそれは、宗門における僧侶、ご門徒に対して私たちの態度を表明するものであります。

悲しみが極まるとき涙は涸れるといいます。胸中で涙を流し、怒りに震えるご門徒。声を挙げず黙つて願い続けておられるご門徒。そして「觀經」の読誦に感じる痛みを、勇気をもって発せられた声。その声にいかに耳を傾け、受け止め、向き合っていくのか。私たちに求められるべき姿勢は、共に悩むものとなりうるか、ということです。

宗祖の教えに対する信頼を示すものでなくではなくてはならないことを思っています。同時にそれは、宗門における僧侶、ご門徒に対して私たちの態度を表明するものであります。

「是施陀羅」問題は、決して「同関協」に「答え」を求めているのではないでしょう。

「同関協」もまた、誰かに答えを求めたり、委ねたりするのでもないでしょう。

答えを希求し続けながら、いかに悩みを共有し、語り合っていくことができるのか。

「是施陀羅」問題を課題として人間性を回復し、部落差別の克服を果たしていく歩みを続けていくこと、それを私たち一人ひとりの現場において実践していくことを、このたびの慶讃法要を機縁として確め、記念大会の「表白」として、「同関協」の基本姿勢を表明します。

## 「同関協」宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年 慶讃法要記念大会

### 慶讃事業方針

「是施陀羅」問題を課題として差別の克服(人間性の回復)を果たす

### 「是施陀羅」問題に対する「同関協」の基本姿勢

『記念大会パンフレット』 抜粋



川端大会実行委員長による「表白」

「是施陀羅」問題に対する「同関協」の基本姿勢

二〇二二年三月に行われた第一回「是施陀羅」問題を考える奉仕団では、「觀經」の「是施陀羅」の読誦について、「読む・読まない」の二者択一的議論ではなく、「読めない」という立場を共有しました。(『同関協だより』第六十四号参照)

さらに同年十月に結成された第二回奉仕団においては、この「読めない」という姿勢を具体的にどう表現し、いかにご門徒と共有していくのかという視点で話し合いました。(『同関協だより』第六十五号参照)

そこで挙げられた課題は、

① 「同関協」の基本姿勢は誰に對して示されるのか

② 「觀經」を無自覺に読んできた者としての謝罪

③ 法要・儀式における読誦の前途、仏説としての教学的意義の明確化

というものでした。

読誦の方途については、「読めない」という不採用は、「觀經」そのものをいうのか、「是施陀羅」の文言に限るのか、「觀經和讃」はどうかなどの問題が出され

ん。

まず①の、表明は誰になされるものかについては、ご門徒に対する意識をもつものでした。そして、②の謝罪を示す対象を踏まえたとき、私たちの基本姿勢は、これまでの糾弾の声を真摯に受け止めるならば、

宗祖の教えに対する信頼を示すものでなくではなくてはならないことを思っています。同時にそれは、宗門における僧侶、ご門徒に対して私たちの態度を表明するものであります。

「是施陀羅」問題は、決して「同関協」に「答え」を求めているのではないでしょう。

「同関協」もまた、誰かに答えを求めたり、委ねたりするのでもないでしょう。

答えを希求し続けながら、いかに悩みを共有し、語り合っていくことができるのか。

「是施陀羅」問題を課題として人間性を回復し、部落差別の克服を果たしていく歩みを続けていくこと、それを私たち一人ひとりの現場において実践していくことを、このたびの慶讃法要を機縁として確め、記念大会の「表白」として、「同関協」の基本姿勢を表明します。

表白

\*一九二二年、西光万吉さんは全国水平社創立大会の翌月、奈良県での演説会で「旃陀羅」の差別性に触れる。同じく水平社の井元麟之さんは「旃陀羅」に対する解釈に異議を訴え、生涯を通じて東西両本願寺を問い合わせ続けた。

あなたのご誕生から八百五十年  
真宗を開顯されて八百年の時をいただいて申し上げます  
あなたが大切にされた『観無量寿經』  
そのお経の「是旃陀羅」の語  
わたしたちはいま 読まると痛いという声を聞いています  
あなたならどうされるでしょうか  
その言葉に傷つかれたお同行の指摘に耳を傾けることもせず  
百年が過ぎました

釈尊をはじめ 七高僧から学ばれた尊いお聖教  
あなたは そのご註釈のなかで  
その言葉に表向きに触れず 裏書のメモに留められました  
この態度をわたしたちはどう受けとつていたらよいでしょうか  
これまで差別によって傷つかれた同行の訴えに  
ご開山に申しわけなかつたという気持ちはないんですか  
という信心の呼びかけがありました  
彼らはじぶんたちへのお詫びを要求したのではなく  
彼らが心から敬うあなたを 冒流していることへの訴えでした  
わたしたちはいま 読まないでほしいと言われながらやめられないでいます

差別のない世界を願いとしながらも  
無自覚に読誦してきたことへの慙愧として  
わたしたちは その言葉を読めなくなりました  
傷つけられた者と傷つけた者がほんとうに救われるまでは  
あなたのご誕生をお祝いするとき 感謝とともにお詫びします  
あなたは「無慚愧は名づけて人とせず」と引いてくださいました  
あんた人間忘れたん どこで忘れたん  
人間忘れていませんか  
忘れていたことにも気づかずいました  
傷つけられた者と傷つけた者をともに救う  
汝 我が名を称えよという如来からの呼びかけ  
共に 朋に 友に 生き遇う世界を求めて  
ここに ともに 悩み 人間を回復していく歩みを果たしていくことを  
敬つて申しあげます

人間を忘れません  
南無阿弥陀仏

二〇一三年四月十二日

\*「あなた 人間忘れていませんか  
ー共に、朋に、友に生き遇いましょうー」  
「あんた人間忘れたん どこで忘れたん  
人間忘れたん」一九八九年、「第二回真宗大谷派糾弾会」において、部落解放同盟京都府連合会書記長の駒井昭雄さんが宗派に問い合わせた。

\*「同関協」が、「是旃陀羅」問題を課題として差別の克服（人間性の回復）を果たす」を事業方針に掲げ慶讃事業として行った「是旃陀羅」問題を考る奉仕団（全二回）において、法要式に定められた読經を僧侶の責務としつつ、読むことに痛みを訴える人の顔を思い、読めないことに後ろめたいものを感じながら、「観經」を「不読」か「読誦」かの二者択一の議論ではなく、「差別に苦しんでこられたご門徒の前で『読めない』との思いを共有した。

\*「無慚愧は名づけて人とせず」  
親鸞聖人は、「涅槃經」を引かれて「教行信証」信卷に、「慚は内に自ら羞恥す、愧は発露して人に向かう。慚は人に羞ず、愧は天に羞ず。これを慚愧と名づく。無慚愧は名づけて人とせず」と記している。また、「正像末和讃」に、「無慚無愧のこの身にてまことのこころはなけれども、弥陀の回向の御名なれば、功德は十方にみちたまふ」と和讃された。

\*「あんた人間忘れたん どこで忘れたん  
人間忘れたん」一九八九年、「第二回真宗大谷派糾弾会」において、部落解放同盟京都府連合会書記長の駒井昭雄さんが宗派に問い合わせた。



### 門前ライブ「人間を忘れない!」

#### 演奏リスト

- ♪ 白目
- ♪ 独立記念日
- ♪ 生きるっていうこと
- ♪ 大阪UP (DJ 下拓REMIX)
- ♪ 頑張ってれば
- ♪ 諸先輩方からのお言葉
- ♪ Nothing
- ♪ 涙が出る
- ♪ 心とフトコロが寒い時こそ胸を張れ
- ♪ 切り花の一生
- ♪ ここから…いまから



### 「同関協」宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讚事業会計決算書

項目	歳入項目	概算額	決算額	比較増減	備考
1 1	事業積立金	900,000	900,000	0	慶讚事業・50周年事業積立金
2 1	本山助成金	1,500,000	1,500,000	0	慶讚事業助成金
	合計	2,400,000	2,400,000	0	

項目	歳出項目	概算額	決算額	比較増減	備考
1	記念大会部会費	1,200,000	1,491,024	291,024	ポスター・大会冊子等発行部会費より充当
1	記念講演	450,000	736,260	286,260	講師礼・レジュメ・資料・弁当・会議費
2	記念ライブ	750,000	754,764	4,764	出演料・機材設備・備品レンタル・看板等
2	奉仕団部会費	200,000	107,780	△ 92,220	「是施陀羅」問題を考える奉仕団×2回
1	奉仕団結成×2	200,000	107,780	△ 92,220	講師礼・案内印刷・送料
3	発行部会費	500,000	55,140	△ 444,860	ポスター・冊子は記念大会部会作成
1	ポスター・冊子	500,000	55,140	△ 444,860	会議費
4	予備費	500,000	0	△ 500,000	(50周年事業費)
1	予備費	500,000	0	△ 500,000	
	合計	2,400,000	1,653,944	△ 746,056	

### 2022年度 慶讚事業・50周年事業積立金会計報告

収入	項目	金額	支出	項目	金額	差引剰余金
1	2021年度 緑越金	750,000	1	慶讚事業費	153,944	
2	2022年度 回付受金	150,000			0	
	合計	900,000			153,944	746,056円

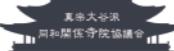
\* 積立金会計剰余金は2023年度会計に繰入

### 「同関協」宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年 慶讚法要記念大会

## 人間を忘れない! SHINGO★西成 DJ FUKU



東本願寺門前ライブ



宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年 慶讚法要記念大会  
あなた人間忘れていませんか?  
—共に、朋に、友に生き遇いましょう—

大会表白に引き続き、御影堂門前をステージとし、新しく整備された「東本願寺前市民緑地(愛称・お東さん広場)」を客席として、午後4時より記念ライブコンサートを開催。「門前ライブ 人間を忘れない!」と題して、SHINGO★西成 with DJ FUKUさんの“魂の叫び”と謳われる11曲が披露され、聴衆約400人が体を揺らしながら聴き入った。

その中でも、「生きるっていうこと」「諸先輩方からのお言葉」「ここから…いまから」の3曲は、来年2024年に迎える「同関協」発足50周年に向けて、私たちに何が願われ、あゆみが続いてきたのかを振り返る機会になった。

とくに、「言葉の意味ばかり求めるな、いのちの叫びを届けろ」というメッセージに、先人の理屈を越えたあゆみが確実にあり、それは言葉だけでなく「存在の根底から突き上げられてくる叫び」として、私たちに届けられていると感じた。

今回表明した「是施陀羅」問題に対する基本姿勢をもとに、これから「同関協」が目指すところは何なのかを具現化し、「課題の共有」が出来るための発信力を身に付けなければならない。しかし、宗門内でも久しく言われながら、「何が課題なのか」「なぜ共有する必要があるのか」「共有出来たとして、そこから何をしていきたいのか」が表されていなかったように思う。

言葉だけでなく、何か別の表現でもって我々の「いのちの叫び」を届けることも必要ではないかと考えている。

(報告 編集委員 浜口和也)

# 総会報告

## 2023年度総会議案

- 議案第1号 2022年度事業報告
- 議案第2号 2022年度決算書並びに監査報告
- 議案第3号 2023年度事業計画(案)
- 議案第4号 2023年度予算(案)

それぞれ懇親を深められた。学習会終了後に開催された懇親会が、総会のために3年間見送っていた懇親会が、総会・学習会終了後に開催され、出席された皆さ



### 総会学習会

テーマ 部落差別はなぜ今も残り続けるのか

— 部落差別の存続根拠に関する「3つの視座」からの考察 —

講師 谷元 昭信さん

2023年7月18日  
しんらん交流館 大谷ホール

## 「同関協」宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要記念大会 記念大会参加者の声

- 今回、記念大会に参加して一番印象に残っているのは、川端裕敬大会実行委員長が読み上げられた表白です。『観無量寿經』に説かれている「是施陀羅」という言葉が読めなくなった背景として、「無自覚に誦誦してきたことへの慚愧として」という一文がありました。私にもその自覚は全くありませんでした。
- ライブ見て力もらつました。講義勉強になりました。とくに印象的だったのは水平社宣言です。教区での学習会でも毎回読んでますが、弱点なんかもしっかりと抑えられて改めて聞いてみるとなるほどとおもいます。是非、文字起こして欲しい講義でした。拙い感想ですが、また、よろしくお願ひします。なかなか文章では、伝わりにくいですが、講義もライブも力もらいました。
- 誘われてきたのですが、お話を聞いて言葉にならないのですが大切なことをお聞かせいただきました。自分の現場で考えさせてもらいます。
- 講義の中で熱のある慚愧ということがとても響きました。
- 具体的に願いを前にして動き出して進んでいかなければなりません。いったいわたしたちは何を守ろうとしているのか。
- 水平社の中にあっても女性たちは排除されてきた！ ジェンダーのことを取り上げてほしい。
- この講義を聴かせてもらい差別解決に真宗教団が期待されたのだと思いました。
- いまこれだけ問題になっている「是施陀羅」です。しんらん交流館で内々で開催するのではなく、どうして御影堂で記念大会を実施しなかったのですか？ 親鸞さんの前で…。
- まだ多くの方が課題になり得ていない現実と、「是施陀羅」という言葉によってなってきた差別的な説教により貶められてきた人々がいたことも無自覚に誦誦を続けていた僧侶がいる中で、取り沙汰されるのは「読むのか、読まないのか」ということに終始しているように思います。



「同関協」宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要記念大会  
あなた人間忘れていませんか？  
—共に、前に、友に生き迺いましょう—

## ニンゲン ワスレナイト イマセンカ

- ニンゲンワスレテイマセンカ  
これは親鸞にかえるということ。
- 一番弱い人の目線に還るということを思いました。
- 人数の問題ではなく御影堂で開催するべきでは？いろんな方々に聞いてもらいたかった内容です。
- これだけの規模で行われ、内容としてもとても大事なのに、なぜ御影堂で開催しなかったのか。より多くの方々に参加してもらい、ともに考えていく機会となつたのではないかと、少し残念に思いました。  
来年、2024年は、「同関協」設立50周年と聞きましたが、是非とも記念大会を御影堂で、宗祖とともに開催できることを願っています。

## 2023年度 事業計画・予算

《2023年》

7月 6日	2022年度会計監査	@京都教務所
10日	第1回三役会(※)	
18日	2023年度総会	
19日	第1回常任・専門委員会	
19日	「是施陀羅」問題についての説明会	
26日	第2回三役会(※)	
8月 3日	第2回『同関協だより』第66号編集会議	
9月 26日	第3回『同関協だより』第66号編集会議	
10月 19日	第1回50周年記念事業実行委員会	
31日	『同関協だより』第66号発行	
11月 16日	第2回50周年記念事業実行委員会	
12月 日	第3回三役会(※)	
6日	第1回常任委員会	
6日	第3回50周年記念事業実行委員会	

《2024年》

1月 日	第4回三役会(※)
2月 8日	第4回50周年記念事業実行委員会
3月 上旬	「同関協」奉仕団 1泊2日 同朋会館
日	第1回『同関協だより』第67号編集会議
4月 日	第2回『同関協だより』第67号編集会議
5月 日	第5回三役会(※)
8日	第2回常任委員会
8日	第4回50周年記念事業実行委員会
日	美作騒擾忌
日	第3回『同関協だより』第67号編集会議
31日	『同関協だより』第67号発行
6月 日	第6回三役会(※)
19日	第2回常任・専門委員会
☆ 各ブロック協議会 随時	
☆ 三役会・各作業部会 随時	
(※) リモート会議	

## 2022年度 事業報告・決算

《2022年》

7月 13日	2021年度会計監査①
15日	2021年度会計監査②
15日	第1回三役会(※)
20日	2022年度総会
21日	第1回常任・専門委員会 @京都教務所
21日	第1回法要実行委員会 @京都教務所
28日	第2回三役会(※)
8月 1日	第1回記念大会部会
7日	第3回三役会・発行部会チーフ会議(※)
9月 8日	第1回『同関協だより』第65号編集会議
8日	第1回発行部会 @慈廣寺
12日	第1回奉仕団部会(※)
15日	第2回記念大会部会
29日	記念大会作業部会
10月 4日	第2回「是施陀羅」問題を考える奉仕団(～5日)
17日	第3回記念大会部会 @京都教務所
25日	記念大会作業部会 解推 打ち合わせ
27日	第4回三役会(※)
11月 1日	慶讃事業作業部会 解推 打ち合わせ
2日	第2回『同関協だより』第65号編集会議
4日	第5回三役会(※)
14日	第4回記念大会部会
14日	第2回法要実行委員会
24日	第6回三役会(※)

12月 12日	第5回記念大会部会
13日	第3回『同関協だより』第65号編集会議
31日	『同関協だより』第65号発行
	慶讃事業記念大会ポスター発行
1月 18日	第6回記念大会部会
2月 8日	第7回記念大会部会
21日	第8回記念大会部会
28日	第1回『同関協だより』第66号編集会議
3月 6日	第9回記念大会部会
13日	法要実行委員会 常任・専門委員合同会
29日	記念大会作業部会
4月 1日	記念大会冊子発行
11日	慶讃法要記念大会 準備
12日	慶讃法要記念大会
13日	慶讃法要記念大会 片付け
5月 2日	第7回三役会(※)
8日	第1回常任委員会
28日	美作騒擾忌 協賛
6月 20日	第2回常任・専門委員会

(\*) リモート会議  
☆ 各ブロック協議会 随時  
☆ 各作業部会 随時

### 2023年度 真宗大谷派同和関係寺院協議会 予算書

歳入  
自 2023年7月1日 至 2024年6月30日

歳入の部 3,257,000円  
歳出の部 3,257,000円

項 目	歳入項目	予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1 1	会費	600,000	600,000	0	@5,000円*120方寺
2 1	本山助成金	1,500,000	1,500,000	0	
3 1	縁越金	407,914	216,104	191,810	前年度より縁越金
4 1	雑収入	749,086	896	748,190	積立金会計剰余金、銀行利息
	合計	3,257,000	2,317,000	940,000	

歳出

項 目	歳出項目	予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1	会議費	1,800,000	1,000,000	800,000	
1	総会費	400,000	300,000	100,000	
2	会議費	1,400,000	700,000	700,000	三役、常任、常任・専門各委員会、会計監査、50周年事業実行委員会
2	事業費	850,000	750,000	100,000	
1	組織拡充費	300,000	250,000	50,000	奉仕団
2	会報費	550,000	500,000	50,000	『同関協だより』発行・編集会議
3	ブロック協議会費	340,000	150,000	190,000	
1	助成費	240,000	150,000	90,000	¥80,000 *3ブロック
2	聞き取り調査費	100,000	0	100,000	美作騒擾忌
4	事務局費	220,000	210,000	10,000	
1	事務局運営費	120,000	110,000	10,000	役員手当、ZOOMライセンス
2	発送費	100,000	100,000	0	
5	積立金会計回付金	0	150,000	△150,000	
1	積立金会計回付金	0	150,000	△150,000	廃目
6	予備費	47,000	57,000	△10,000	
1	予備費	47,000	57,000	△10,000	
	合計	3,257,000	2,317,000	940,000	

### 2022年度 真宗大谷派同和関係寺院協議会 決算書

歳入  
自 2022年7月1日 至 2023年6月30日

歳入の部 2,266,618円  
歳出の部 1,858,704円  
歳入歳出差引剰余金 407,914円

項 目	歳入項目	予算額	収入額	比較増減	備 考
1 1	会費	600,000	454,000	△146,000	@5,000円*90方寺・講読料@1,000円*4
2 1	本山助成金	1,500,000	1,500,000	0	
3 1	縁越金	216,104	216,104	0	前年度より縁越金
4 1	雑収入	896	96,514	95,618	銀行利息、奉仕団立替分戻し
	合計	2,317,000	2,266,618	△50.382	

歳出

項 目	歳出項目	予算額	決算額	比較増減	備 考
1	会議費	1,000,000	906,980	△93,020	
1	総会費	300,000	340,220	40,220	会議費より充当
2	会議費	700,000	566,760	△133,240	三役、常任、常任・専門 各委員会、会計監査
2	事業費	750,000	466,790	△283,210	
1	組織拡充費	250,000	185,960	△64,040	第2回「是施陀羅」問題を考える奉仕団
2	会報費	500,000	280,830	△219,170	『同関協だより』発行、編集会議
3	ブロック協議会費	150,000	150,100	100	
1	助成費	150,000	150,100	100	¥50,000×3ブロック、予備費より充当
2	聞き取り調査費	0	0	0	
4	事務局費	210,000	174,834	△35,166	
1	事務局運営費	110,000	118,106	8,106	役員手当、ZOOMライセンス 発送費より充当
2	発送費	100,000	56,728	△43,272	
5	積立金会計回付金	150,000	150,		